

＜＜研究報告＞＞

看護総合臨床実習（成人）における学生の学び

畠 山 禮 子¹⁾, 福 岡 裕美子¹⁾, 新 田 純 子¹⁾
工 藤 映 子¹⁾, 木 村 紀 美¹⁾

要旨：本研究は、「平成23年度看護臨床総合実習（成人看護領域）」から、学生の学びと課題を明らかにすることを目的とし、実習終了後の学生同士の討議内容や学生レポート内容を帰納的方法で分析した。【基本的知識・技術の応用の体験】、【全人的視点の看護を目指す動機】、【自己を成長させる機会】の3つのカテゴリが抽出された。学生自身が心を開き、患者の言葉やニーズに耳を傾け、反応しようとする努力が大切になってくる。そして、新人看護師のリアリティショックに関して部分的に体験でき、就職後のイメージにもつながることが示唆された。

キーワード：看護総合臨床実習，成人看護学，看護学生，知識と技術の統合

I. 目 的

医療技術の進歩，患者の高齢化・重症化，平均在院日数の短縮化等により，療養生活支援の専門家としての看護職員の役割は，複雑多様化し，その業務密度も高まっている（新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会，2004，厚生労働省ホームページ）。

多くの学校養成所において臨地実習で採られている教育方法は，学生が一人の患者を受け持ち，その患者及び家族と関わりながら，看護ニーズを判断し，看護ケアを計画，実践し，評価するものである。そのため，チームメンバーの一員として，臨床現場の多重課題の優先度を考えながら時間内に業務を実施するなどの能力を，基礎教育の中で身につけることは極めて困難である（新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会，2004，厚生労働省ホームページ）。

さらに「看護基礎教育充実に関する検討会」報告書の中では，重要と考えられる教育内容の充実を図ることと看護実践能力を強化することに重点をおいた保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正案が示され，「統合分野」が新たに区分され，「看護の統合と実践」といった内容が追加された（「看護教育の内容と方法に関する検討会」報告書，2011，厚生労働省ホームページ）。

ジ)

A大学では，平成20年から4年次前期の終りに旧カリキュラムとして配置された「看護臨床総合実習」は，学生が主体的に自己の課題に取り組み，実務に即した実習の中で，看護実践に必要な知識と技術を統合的に体験することを目的に行われてきた。そこで，「看護総合臨床実習」の振り返りの内容が，「看護の統合と実践」における実践へとつながっていくのではないかと考えた。

本研究は，平成23年度「看護臨床総合実習（成人看護領域）」におけるグループ討議とレポートから，学生の学びと課題を明らかにすることを目的とする。

II. 研究 方 法

1) 看護総合臨床実習（成人）の概要：

成人看護領域での実習の構成を慢性期患者の看護，がん患者の看護，周手術期患者の看護，急性期患者の看護の4つとし，実習内容の一つを学生が選択した。学生は教員の指導・助言のもとに，この実習の目的及び到達目標に沿って自己の実習課題を明らかにするために，実習計画書を作成し実習に臨んだ。実習計画書の内容は，課題を達成するための実習目標と到達目標，

1) 弘前学院大学看護学部看護学科

連絡先：畠山禮子 〒036-8231 弘前市稔町20-7

TEL：0172-31-7162，FAX：0172-31-7101（看護学部事務室），E-mail：hatakeyama@hirogaku-u.ac.jp

実習内容、実習方法、倫理的配慮、記録様式、実習スケジュールなどである。これらをもとに実習を展開した。臨地実習終了後には学内で、実習のまとめとして、グループ討議とレポート作成を行った。

グループ討議のテーマは、「自己の課題」、「自己の課題や到達目標を達成するために、どのような事前学習をし、実習を計画し、実践したか」についてである。レポート作成にあたっては、自己の課題を達成するために、どのように取り組んできたのか、そして実習を通して見えてきた学びや新たな目標や課題は何かなど実習の体験をレポートにしてまとめることとした。

2) 研究対象者:平成23年度「看護臨床総合実習」(成人領域)で実習したA大学4年次生(慢性期5名,急性期2名,緩和ケア3名)で同意を得られた学生10名。

3) 研究期間:平成24年2月～5月。

4) データ収集:実習終了後の学生同士の「実習の学びと課題」をテーマに討議した内容と同テーマの学生レポート内容とした。

5) 分析方法:帰納的方法で類似性を見つけてカテゴリ化する。

Ⅲ. 倫理的配慮

研究の目的・方法などについて口頭で説明し、研究への協力は、自分の自由意思で決定でき、いつでも拒否できること、たとえ研究協力を拒否したとしても授業や成績において何ら不利益を被らないことについて説明。また、研究過程や公表に際してはプライバシーが侵害されないよう最大限の注意を払い、個人の所属や事柄が特定されないよう配慮し、データの内容は研究者自身がテキストに変換した後、鍵の掛かった場所

に保管することを確約し、書類はパスワード管理し、研究終了後は全ての関係する書類を破棄することを説明して同意書の署名をもって、同意とした。

本研究は、弘前学院大学倫理委員会の承認を受け、実施した。

Ⅳ 結 果

1) 帰納的方法にて類似性を見つけた結果、オープンコード30、サブカテゴリは、〈基本的知識と技術を応用する〉、〈コミュニケーション技術は患者理解につながる〉、〈患者の安全・安楽を第一に考えることが必要〉、〈患者を全人的に捉えて看護することが重要である〉、〈家族も含めた看護の提供が必要である〉、〈患者の持っている最大限の力が発揮できるように支援する〉、〈患者にとって最善の看護を常に考えて行動する〉、〈患者にとって最善の看護を常に考えて行動する〉、〈アセスメント能力を鍛えることが必要である〉、〈自己の将来像を確認することができる〉であった。さらに分析を行った結果、【基本的知識・技術の応用の体験】、【全人的視点の看護を目指す動機】、【自己を成長させる機会】の3つのカテゴリが抽出された。

(表1) 以下サブカテゴリを〈〉, カテゴリを【】で表す。

Ⅴ 考 察

1 【基本的知識・技術の応用の体験】

専門領域の実習を終えて総まとめとなる総合実習において、学生は基本的技術を再度学内で演習し、文献や教科書などを参考にしながら実習に臨んでいた。ここでは、専門領域の実習で自分に自信のなかった技術

表1 カテゴリの概要

カテゴリ	サブカテゴリ
基本的知識・技術の応用の体験	基本的知識と技術を応用する
	コミュニケーション技術は患者理解につながる
	患者の安全・安楽を第一に考えることが必要
全人的視点の看護を目指す動機付け	患者を全人的に捉えて看護することが重要である
	家族も含めた看護の提供が必要である
	患者の持っている最大限の力が発揮できるように支援する
自己を成長させる機会	患者にとって最善の看護を常に考えて行動する
	つねに振り返りながら看護を考える
	アセスメント能力を鍛えることが必要である
	自己の将来像を確認することができる

や実践したことのない技術をきちんと身につけようという姿勢がうかがわれた。こうした姿勢で安全にケアを提供することにより患者のQOLを高めるきっかけとなることを理解できていた。

「総合実習では卒業前の看護実践に関する自己評価となり、就職に向けた各自の課題を明確にする機会となりうることを示唆している」（黒髪ら，2009）と述べている。これらのことは基本的技術を再度学習し振り返ることによって、専門職として自分自身に必要なものを見出すことができる体験となったのではないかと考える。また、患者の状況に応じた看護を提供するためには、コミュニケーションを駆使し患者の症状を傾聴し、アセスメントすることも重要であることが理解できていた。コミュニケーションを図る際には、患者の話しやすい話題の提供やタイミングを見図ることや、患者の身体的・精神的状況を考慮することの大切さも理解できていた。

2【全人的視点の看護を目指す動機付け】

学生は、患者の感情の機敏さに触れられる看護師、気付きができる看護師を目指すことや、患者と同じ目線で看護をすることの重要性などについて学んでいた。全人的看護とは身体的、精神的・社会的視点と捉えるがこれらの中に患者の感情を読み取り患者の立場で物事を捉えるということも全人的視点と捉えた実習になっていたと思われる。

佐々木幾美他⁵⁾は、看護実習は、「感受性を高め、自分の心を開き、相手の言葉やニーズに耳を傾け、反応しようと努力することが大切である」と述べている。これらのことから患者へ接する態度として、学生自身が心を開き患者の思いや訴えを受け止めるだけでなく、患者がもてる能力ができるだけ発揮できるように看護を提供すること、患者のみならず患者の家族を含めた援助として提供していくことができるよう努力することが大切であることを理解できていたと考える。

3【自己を成長させる機会】

学生は、実践した看護をこれでよいとは思わずに、他に何かできなかったのか、もっとすべきことがあったのではないかと考えていた。患者にとって最善の看護を常に考えながら行動するということは、学生自身が決して自己判断せず、看護チームの一員として意識し、患者にとって最善のケアを尽くせるように、一

つ一つのケアの後に振り返りを行うことの重要性を体験する絶好の機会であった。つまりは現場でのリアリティを体験していたと意味付けされる。また患者のバイタルサイン、表情、動作、訴えといった日々の変化を的確にアセスメントできる能力を鍛えることが自己の成長に結びつくのである。

黒髪 恵他⁴⁾は、「実習の場でリアリティを体験することは、単なる体験ではなく、体験を学びにかえることができ実践能力につながっていく。」と述べている。今回の看護臨床総合実習(成人看護学領域)では、臨床現場のリアリティを体験する機会となり、さらに体験を学びにかえるプロセスであったと思われる。これらのことは、新人看護師のリアリティショックに関して部分的に体験でき、就職後のイメージにもつながったのではないかと考える。

VI 結 論

1. 看護臨床総合実習（成人看護学領域）の学生の学びとして【基本的知識・技術の応用の体験】【全人的視点の看護を目指す動機】【自己を成長させる機会】の3つのカテゴリが抽出された。
2. 専門職として自分自身に必要なものを見出すことができる体験となった。
3. 患者に接する態度として、学生自身が心を開き、患者の言葉やニーズに耳を傾け、反応しようとする努力が大切になってくると示唆された。
4. 新人看護師のリアリティショックに関して部分的に体験でき、就職後のイメージにもつながる。

VII 今後の課題

今後の課題として、チームメンバーの一員として、臨床現場の多重課題の優先度を考えながら看護を実践するなどの能力を身に付けてもらうための実習形態を考慮していく必要がある。

参 考 文 献

- 1)「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書（2004）．厚生労働省ホームページ<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/03/s0310-6.html>．
- 2)「看護教育の内容と方法に関する検討会」報告書（2011）．

- 厚生労働省ホームページ<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000013l0q-att/2r98520000013l4m.pdf>
- 3) 黒髪恵・有田久美・佐久間良子・鶴岡由香里・今辻由香里・塚原ひとみ (2009). チームの一員として複数患者の看護を实践する実習での看護学生の学びと課題 日本看護学会論文集 看護教育 39号, 307-309
- 4) 佐々木幾美・西田朋子・濱田悦子 (2008). 看護学総合実習に対する卒業生の評価 日本赤十字看護大学紀要 22号, 49-60

STUDENT LEARNING IN A COMPREHENSIVE CLINICAL (ADULT) NURSING PRACTICUM

Reiko HATAKEYAMA¹⁾, Yumiko FUKUOKA¹⁾, Junko NITTA¹⁾
Teruko KUDO¹⁾ and Kimi KIMURA¹⁾

Abstract: The objective of this study was to investigate student learning in 2011 comprehensive clinical nursing practicum (adult nursing) and to address any issues which may have arisen in the course. Post-practicum class discussions and student reports were used in an inductive analysis, and the following three categories of learning were generated: practical experiences applying basic knowledge and skills, motivation to pursue nursing from a holistic perspective, and opportunities to mature. Results suggested that students need to increase their open mindedness, improve how they listen to the words and needs of their patients, and improve how they respond to their patients. This study demonstrated that the practicum helped students experience a partial “reality shock”, which is common among novice nurses, and this experience helped the students better understand the profession they will be joining.

Key words : comprehensive clinical nursing practicum, adult nursing, nursing student, integrating knowledge and skills

1) Faculty of Nursing, Hirosaki Gakuin University, 20-7 Minorichou, Hirosaki, Aomori Pref, 036-8231, Japan
TEL : 0172-31-7162, FAX : 0172-31-7101, E-mail ; hatakeyama@hirigaku-u.ac.jp